



東京深川小名木川通
日本精製糖株式會社

砂糖課税ニ關スル意見書

4423



414
A 1955

目録

第一 砂糖ノ必要食料ナルヲ

第二 必要食料ハ精製糖ナラサレハ有害ナルヲ

第三 我國消費ノ精製糖現今既ニ巨額ニシテ將來ニ於テ之ニ數倍スル

ニ至ルハ文化自然ノ順序ナレハ人力ヲ以テ之ヲ防止スル能ハサルヲ

第四 前項ノ如ク必要品ニシテ巨額ノ消費アルニ於テハ之レカ工業ヲ内地ニ興サ、ル可ラス今之ヲ興ストセハ國家ニ莫大ノ利益ヲ生スルヲ

第五 精製糖ハ之ヲ我邦ニ發達シ外國產ヲ壓倒スルニ當リ工業經濟ノ原則上勝算十分ナルヲ

第六 前項ニ關ハラズ從來我國ニ精製糖業ヲ興ラサル理由ハ工業政策當ヲ失シ各國ニ比シテ最モ酷薄ノ待遇ナルヲ

大正十一年四月
侯爵郵寄贈



第七

今若シ之ニ課税ヲ加フルニ至テハ其負擔ノ何人ニ歸スルヲ問ハ
ス到底此工業ノ遂ニ我邦ニ興ル能ハサルニ至ルカ故ニ更ニ他ノ
方法ヲ以テ此工業ヲ獎勵スルニ非サレハ此課税ハ之ヲ全然見合
セラレ度事

砂糖課税ニ關スル意見書

第一 砂糖ノ必要食料ナルコト

砂糖ノ人生ニ必要欠ク可ラサル食料ナルコトハ洽ネク世人ノ知ル所ナレ
往々事理ヲ辨セスシテ僻説ヲ唱ヘ漫然之ヲ以テ奢侈的消費品ナリト
誤解スル者アルカ故ニ茲ニ其必要食料ナル所以ヲ一言スヘシ
夫レ嬰兒ノ胎内ヲ脱スルヤ初メテ口ニスルモノハ之レ慈母ノ乳ナラス
ヤ此乳ヤ實ニ天與ノ食物ニシテ採テ以テ人生食料ノ標準ト爲スヘキ爲
メ天ノ指示セルモノト云フ可シ此乳ニシテ其主成分ニ砂糖ヲ有スルヲ
見バ砂糖ノ必要食料ナルコトハ何人モ首肯スヘキモ今之レガ生理的効能
ヲ略述センニ

第一 砂糖ハ吾人體温ヲ發生スルノ原動力トナルモノニシテ科學

的ニ之ヲ炭水素物ト稱シ砂糖中ノ炭素分酸化ニ基キ體温發

生ヲ來スナリ

二

第二

吾人筋肉ニ運動力ヲ生スル亦全ク血液中ニ存在スル砂糖ニ因ルニシテ身體四肢ノ運動ハ此砂糖ヲ營養トシ消費スルヨリ來ルナリ學說ニ從ヘハ筋肉一英斤ハ一時間ニ人體靜止間血液中ノ砂糖壹グラムヲ消費シ又運動間ニハ血液中ノ砂糖四グラムヲ消費スト云フ近年「プロシヤ」國陸軍省ハ兵卒ニ砂糖ヲ給シテ其能ク勞役ニ堪フルコトヲ經驗シ常食トシテ之ヲ用井シムト聞ク

斯ノ如ク砂糖ハ吾人筋肉ニ運動力ヲ與フル唯一ノ營養物ナレハ平素運動少キ事業ニ從事スル者ニモ必要ナレモ勞役ヲ以テ糊口ヲ塗シ筋肉ヲ用テ家計ヲ立ツル者ニハ最多量ノ必要食料ナリ如斯克砂糖ハ吾人體溫發生ノ唯一原動力ナレハ老年壯年共ニ之ヲ必要トスレモ人生ノ發育成長期ヲ經過スヘキ幼年者ニハ最多量ノ必要食料ナリ彼ノ理否ノ區別

ナキ兒童ニシテ砂糖ヲ嗜ム所以タル實ニ天稟ノ特有性ニ因ルコトヲ知ラハ敢テ之ヲ以テ單ニ甘味ニ迷フモノトナスノ不理ナルヲ悟ルニ足ラン
世界ニ最勤勉ナル國民ハ最多量ノ砂糖消費者ニシテ最惰弱ナル國民ハ最少量ノ砂糖消費者ナルコトヲ聞キ英米ノ如キ最勤勉ナル國民ハ最多額ノ砂糖ヲ消費シ之ニ反シテ朝鮮ノ如キ最惰弱ナル國民ノ古來最少額ノ砂糖消費者ナル好例アルヲ見ハ泰西衛生學者ノ曰ヘル砂糖消費額ハ文明ノ進度ニ正比例ストノ言ヲ證スルニ足ラン
第二 必要食料ハ精製糖ナラサレハ有害ナルコトヲ知ルニ足ラス既ニ砂糖ニシテ食料タル以上ハ之ヲ衛生的ノ品質トナサザル可ラス既ニ砂糖ニシテ必要食料タル以上ハ之ヲ最衛生的ニ製造セサル可ラス砂糖精製ノ業是ニ於テ乎必要ヲ見ルナリ抑モ砂糖製造ニ二段落アリテ一ヲ粗製ト云ヒ次ヲ精製ト云フハ世人ノ熟知スル如シ粗製糖トハ黑糖赤糖ニシテ其製法タル汚雜ヲ極メ只植物中ノ糖分ヲ漸ク市場ニ出シ得ル

三

形状ニセハ足レリトシ製造スルヲ以テ不純物ノ有無敢テ問フ所ニ非ラ
 ス是ヲ以テ其製造ニ必要免ル可ラサル石灰ハ勿論種々ノ有機質及無機
 質物體ヲ含有シ加フルニ製造ノ際偶然之ニ混スル物質ハ其何タルヲ論
 セス皆一團トナシテ之ニ砂糖ナル名稱ヲ附スルカ故ニ精細ニ之ヲ検査
 セハ到底直チニ食料トナスニ堪フ可ラサルヲ見ルヘシ乃チ更ニ之ニ第
 二次ノ理化學的製造ヲ加ヘ精巧ナル機械ニ依リテ精製シ一切ノ汚雜物
 ヲ除去シ純白精潔ノモノトナシテ始テ衛生的食料トナルハ當然ナルニ
 本邦人中尙ホ未タ之ヲ知ラサル者多ク黒糖赤糖ヲ平然常用シ他日ノ病
 源トナルヲ悟ラサル者アルハ豈嘆スヘキニ非ラスヤ試ニ精製糖所ニ於
 ケル排出物ヲ見ヨ黒糖赤糖中ヨリ得ル汚穢物ハ一瞥シテ尙震慄セシム
 ルニ足ラン

粗製糖ノ食料ニ適セサルハ此理ニ由ルニシテ必スヤ精製ヲ經サレハ食
 料トナス可ラサルナリ故ニ歐米各國ニテハ赤糖又ハ黒糖ヲ直接消費ノ

爲メ販賣スル者ハ山間僻地ニ至ルモ尙之ヲ見ル能ハス爲メニ常人ノ如
 キ砂糖ニ赤糖又ハ黒糖アルヲ知ラス黒糖赤糖ハ假令道路ニ遺棄スルモ
 乞食尙之ヲ拾ハスト聞ク衛生ノ進歩シタル歐米ニ於テハ當然ノ事ト云
 フヘシ今ヤ我國モ亦此必要食料ナル砂糖ノ需用漸次増加シ殊ニ精製糖
 ニ至リテハ急足ノ増加ヲ見ルハ眞ニ國家文化ノ爲メ賀ス可キナリ
 第三 我國消費ノ精製糖現今既ニ巨額ニシテ將來ニ於テ之ニ數倍スル
 ニ至ルハ文化自然ノ順序ナレハ人力ヲ以テ之ヲ妨止スル能ハサ

試ミニ既往十一年間ヲ通シタル本邦消費額ノ統計ヲ見ルニ

精製糖	粗製糖		明治廿年	同廿五年	同三十年
	内國産	外國産			
外國産	四〇、一五六 <small>噸</small>	三、七八五 <small>噸</small>			
外國産	四、八五七	四、八六二			
外國産	三、六九五	六、四七六			
					二、六八五

參照	一人平均		
	二十年	二十五年	三十年
總計	二八七・八	一五〇・九四	二四六・三三
英 國	三〇・五	三三・〇	六三・〇
佛 國	三六・五	三六・五	六三・〇
獨 國	二二・〇	二二・〇	二二・〇
北米合衆國	三〇・八	三〇・八	三〇・八
各一人平均	二二・〇	二二・〇	二二・〇

故ニ明治廿年ノ額ヲ標準數、百トセハ

粗製糖	二十年	二十五年	三十年
粗製糖	100	100	100
精製糖	100	191	346

此表ニ據レハ粗製糖ハ僅ニ七割三分ヲ増加セシニ過キサルモ精製糖ハ
 貳倍四割六分ヲ増加セシモノト云フ可ク此勢ヲ以テセハ歐米ト同シク
 多年ノ後遂ニハ精製糖ノミヲ用ユルニ至ル必セリ而シテ此衛生的必要
 食料タルヤ其出所ヲ尋ヌルニ前表ニ示スカ如ク其全部殆ント悉ク海外
 ノ輸入品ニ係ルモノニシテ之レガ爲メ昨年ノ如キ一千五百萬圓ノ巨資

ヲ支拂ヘリ現在ノ狀況ニシテ既ニ己ニ侮ル可ラス况ンヤ向後ノ趨勢ヲ
 以テセハ其需要ノ益々増加セサル可ラサル此精製糖ニシテ之ヲ永ク海
 外ノ供給ニ仰カンカ當ニ國家經濟上百年ノ大計ヲ謬ル一大失策ナルノ
 ミナラス實ニ我工業界ノ國辱ト云フ可シ本邦精製糖業ノ興サ、ル可ラ
 サル豈偶然ナランヤ

第四 前項ノ如ク必要品ニシテ巨額ノ消費アルニ於テハ之レカ工業ヲ
 内地ニ興サ、ル可ラス今之ヲ興ストセハ國家ニ莫大ノ利益ヲ生
 スルコト

精製糖需用ノ生スル所ノ如ク人文進步ノ自然ノ順路ニシテ到底人力ヲ
 以テ之レカ妨害ヲ爲シ得ヘキニ非ラス之レヲ歐米各國ニ徵シ又我既往
 ニ鑑ミルニ日ヲ逐フテ其需要ノ増加スル勿論ナリ今ヤ我邦一年ニ一千
 五百萬圓ヲ消費スルニ止ルト雖モ五年ヲ經十年ヲ過クルニ及ヒ二千萬
 乃至三千萬圓ノ巨額ニ及フ必セリ如斯巨額ノモノニシテ且其需要ノ必

要ナルモノニ對シ之ヲ海外輸入ノ跋扈ニ委テシテ國家經濟ニ影響スル所幾許ナルヘキカ試ニ製造費ヲ一割五分利益ヲ八朱ト見積リ計算スルニ今日ニシテ一年參百萬圓ヲ此工業品ノ爲メ空シク海外ニ散スルナリ若シ夫レ五年十年ノ後ニ至ランカ此精製業ニシテ本邦ニ發達スルナクシハ年々歳々五百萬圓ノ製造費及ヒ利益ヲ海外ニ放出スヘシ某等ノ目的トスル所此製造費及ヒ利益ヲ國內ニ留メ此工業ニ直接間接ニ關係アル數萬ノ資本家數十萬ノ勞働者ヲシテ生計ヲ營マシメントスルニ在リ本邦ニ精製糖業ヲ起スカ爲メ直接ニ生スル國家經濟上ノ利益ハ前述ノ如キモ之ニ間接ノ結果ヲ加ヘンカ其利益タル蓋シ更ラニ數百萬圓ヲ増加スヘシ抑モ我國消費スル精製糖ノ八分ハ香港製造ニ係ルヲ以テ之カ商權全ク彼等外人ノ掌中ニ入り彼レ賣ラスンハ我之ヲ買フ能ハス彼カ要求代價ヲ支拂ハスンハ我之ヲ買フ能ハス供給ノ多少代價ノ昂低一ニ彼ノ方寸ニ出ツルナリ然レモ若シ內國ノ粗製糖及ヒ瓜哇呂宋等ノ粗製

糖ヲ以テ内地精製糖業ヲ起シ彼ト同一物品ヲ市場ニ供給スル者アラシカ假令其規模彼ニ比シ少ナルモ尙且ツ競争ヲ生スル必然ニシテ從テ一般市場ノ代價ヲ低減シ嘗テ彼等ノ壟斷スル利益ヲ減スルニ至ル當然ナリ而シテ此代價減少ハ一般消費者ノ享クル利益ニシテ之ヲ計算セハ數百萬圓トナルヘシ現ニ某等カ過去數月間ノ經驗ニ於テ之ヲ証明シテ餘アリ加之此工業ノ發達ニ伴ヒ臺灣沖繩其他内地產出ノ原料糖ヲシテ盛大ナラシムルニ至ルハ識者ヲ待タスシテ瞭ナルヘシ此利益幾許ソヤ

第五 精製糖ハ之ヲ我邦ニ發達シ外國產ヲ壓倒スルニ當リ工業經濟ノ原則上勝算十分ナルコト

然リト雖モ此工業ニシテ到底外國產ニ匹敵シ得ルノ計算立タサルニ於テハ此計畫タル徒ニ畫餅ノミニ止マリ敢テ論議スルノ價值ナカルヘキモ其有望ナル歷々トシテ事實ノ憑據スルモノアルヲ奈加セン即チ本邦輸入ノ大部ヲ占ムル精製糖ノ製造地タル香港ヲ見ルニ其地一モ砂糖ヲ

產出スルニ非ラス悉ク其原料ヲ瓜哇又ハ呂宋ヨリ輸入スルカ故ニ今之
ヲ直接本邦ニ輸入スルモ運賃ニ於テ格別ノ差違ナク且ツ彼ハ製品トシ
テ再ヒ之ヲ我國ニ輸入スルノ不利益アリ原料ニ次キ最多額ノ費用ヲ占
ムル石炭ニ至リテハ彼ハ遠ク之ヲ本邦ヨリ取寄スルカ故ニ勿論我ヨリ
高價ノモノヲ要スル必セリ加之香港ノ地タル水利ニ乏シキヲ以テ此工
業ノ必需補助物タル水ニ於テハ一滴幾許ノ金ニ價スルニ至リ到底之ヲ
我國ノ便利ニ比スヘキニ非ラス又工銀ニ至リテモ我ノ彼ヨリ廉價ナル
ハ何人モ知ル所ナリ如斯ク打算シ來レハ工業經濟ノ原則上此工業ノ遂
ニ能ク我邦ニ發達シ得ルハ某等ノ確信ヲ愆ラサル可キモ今日ニ於テ憂
慮ニ堪ヘサルハ技術ノ優劣資本ノ多少如何ニアリ内地ニ於テ彼ト同一
製品ヲ爲スニ至ラシカ競争ノ來ルヘキハ豫期セサル可ラス此際ニ當リ
熟練ノ充分ナルヤ否ヤ資本ノ豊富ナルヤ否ヤハ勝敗ノ數ニ大關係アル
モノニシテ二者共ニ某等ノ竊ニ掛念ニ堪ヘサル所ナリ之レ幼稚ナル事

十

業ニ向ヒ工業政策ノ必要ナル所以ニシテ某等ノ切望スル所此欠點ヲ補
フニ外ナラス識者請フ此工業ヲ以テ無謀ク設計ニ基クモノト爲ス勿ラ
シコナ

第六 前項ニ關ハラズ從來我國ニ精製糖業ノ興ラサル理由ハ工業政策
當チ失シ各國ニ比シテ最モ酷薄ノ待遇ナルヲモテ
抑モ精製糖ノ如キ人生必要ノ食料ニシテ巨額ノ需要ヲ爲スモ歐米各國
一トシテ之ヲ自國ニ精製セサルモノナキニ獨リ我邦ヲミ何故ニ其全部
ヲ舉ケテ之ヲ外國ノ輸入ニ委テシヤ素ヨリ此工業ノ他ノ工業ニ比シテ
層困難ナルニ加ヘテ我工業界一般ノ尙幼稚ナルガ爲メ到底容易ニ海外
ニ匹敵スル能ハサルニ歸因スヘキモ之カ主原因ハ我糖業政策ノ開國以
來見ル可キモノ無キニ在リ否ヲ諸外國間ニハ競争ヲ以テ糖業ヲ獎勵シ
此工業ヲ保護スルニ當リ我國ハ此間ニ介在シツ、之ヲ雲煙過眼シ冷淡
放擲ヲ極メシカハ遂ニ此業ノ發達スルヲ偶々之ヲ企業スルモノアル

十一

モ皆中途ニシテ斃ル、ノ止ヲ得サリシナリ夫レ一事業ノ幼稚ナルヤ企業者技術者共ニ經驗少ク從テ多少ノ蹉跌ハ免カレサルカ故ニ之ヲ發達セシムル爲メニハ一國政策ノ扶植ヲ要スル必セリ試ミニ我紡績業ノ歴史ヲ見ヨ當初其器械ハ官有物ノ年賦拂下ニアラスヤ暫時ニシテ其原料ハ無稅トナリシニ非スヤ政府ハ之ヲ以テ尙ホ足レリトセス種々ノ便益ヲ彼業者ニ與ヘテ保護セルノ結果漸ク今日ノ盛大ヲ見ルニ至リシニ外ナラス糖業ニ至リテハ如何僅ニ舊開拓使時代北海道ニ於テ多少ノ保護ヲ爲シ一敗シテ復タ顧ミサルナリ既ニ數度ノ民間企業者失敗シ官ノ保護ヲ享クル者モ亦失敗セルヲ見テ遂ニ官民共ニ此業ヲ斷念絶望シ其今日ノ如ク甚シキニ至ルモ尙且ツ此困難ノ事業ニ對スル我糖業政策ノ當ヲ失ヒタル所以ナルヲ悟ラサルハ豈我國上下一般ノ過失ナラスヤ何ヲカ我糖業政策ノ過失ナリシヤト問フニ輸入稅ニ於テ白糖ハ廿三錢六厘赤糖ハ十二錢六厘ナルヲ以テ精粗輸入稅ノ差百斤ニ付僅ニ十一錢ナル

ノミナルニ在リ今粗製糖百三十斤ヨリ精製糖百斤ヲ得ルモノトセハ實ハ此輸入稅ノ差百斤ニ付七錢餘ニ過キス百斤八圓有餘ノ物品ニ對シ七錢有餘高價ノ輸入稅ノミトセハ粗製糖ヲ無稅ト計算シ漸ク精製糖ニ百分一弱ノ輸入稅ヲ課スルニ止マルモノト云フ可シ此他ニハ毫厘モ精製糖業ノ享クヘキ保護ノ舉クルナキニ於テハ之ヲ安ソ幼穉ナル此事業ニ於テ發達スルヲ望ミ得ヘケンヤ

我糖業政策ノ現在ハ斯ノ如シ然シテ將ニ明年一月ヲ以テ實施セラレントスル改正關稅ヲ論センニ去ル廿七年ヲ以テ日英條約附屬稅目ニヨリ精糖輸入稅ヲ協定シ次テ日獨條約ヲ以テ之ト同一輸入稅ヲ課スルトナリタルヲ以テ我精製糖業ヲシテ未ダ確實ナル利益アルモノトノ胸算ヲ興サシムルニ足ラサルモ從前ノ計算ニ比シ聊カ餘裕ヲ見ルニ至リシカハ此業ノ永ク放擲ス可ラサルヲ多年痛心セル人々自利的經濟ヨリモ寧ロ國家的經濟ヲ主眼トシ廿八年ニ至リ全國中此業ニ多少ノ經歷アル

有志者ヲ集メ二會社ヲ創設シ一ハ東京ニ一ハ大阪ニ各工場ヲ設計シ二
 年有餘ノ歲月ヲ經テ何レモ漸ク本年夏期ニ入り新工場ヲ運轉シ見ルニ
 至レリ當業者カ利益ヲ得ルヤ否ヤハ數年ノ計算ヲ積マサレハ未タ俄ニ
 之ヲ語ル能ハスト雖モ其困難ヲ免カレサルハキハ我糖業政策ノ工業扶
 植トシテ尙足ラサルヲ以テ推スニ足ラシ試ミニ我國制度ト海外諸國ノ
 制度トニ於テ精製糖業者ノ享クル保護ノ程度ヲ左表ニテ比較スヘシ(我
 百斤ニ付)

我國獨逸佛國澳匈北米合衆國

精粗 稅ノ 輸入 差入	粗製二十錢四厘 製精七十二錢八厘 八十二錢七厘	一圓六拾二錢 (二百フラン基)	二圓四拾錢 (五百フロリン基)	四圓〇五錢 (一仙八分六度)
五拾八錢三厘六圓	(二百二十マーク基)	四拾八錢 (二百フラン基)	二圓四拾錢 (五百フロリン基)	四圓〇五錢 (一仙八分六度)
九拾一錢	(三百三三マーク〇二五基)	九拾錢 (三百フラン七五基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)
九拾錢	(三百三三マーク〇二五基)	九拾錢 (三百フラン七五基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)
九拾三錢	(三百三三マーク〇二五基)	九拾三錢 (三百フラン七五基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)	九拾三錢 (一百フロリン九基)
四圓〇五錢	(三百三三マーク〇二五基)	四圓〇五錢 (三百三三フラン七五基)	四圓〇五錢 (三百三三フロリン九基)	四圓〇五錢 (三百三三フロリン九基)

獎勵金ヲ受ケタ
 ル外國糖ニハ其
 額ノ反對稅ヲ課
 ス又州ニ依リ產
 出獎勵金アリ

輸
 勵
 金出

外國原料ヨリ精製シ タルモノヲ輸出スル 時ニ輸入稅返戻ノ有 無	我國ニハ此項ナキノ ミナラス當今尙五分 ノ輸出稅アリ	此額一年 七百五十萬圓	此額一年 六百四十萬圓	此額一年 七百四十一萬圓	有
合	計	五拾八錢三厘六圓九拾一錢三	圓三圓三拾三錢四圓〇五錢	圓三圓三拾三錢四圓〇五錢	圓三圓三拾三錢四圓〇五錢

(魯西亞白耳義和蘭西班牙等大同小異ニ付之ヲ略ス)

夫レ列國ハ我百斤ニ付精製糖業ヲ特別保護スルニ少ナキモ三圓ヲ以テ
 シ多キハ七圓ニ達スル巨額ヲ以テシ單ニ精粗輸入稅ノ差ノミヲ以テセ
 ス或ハ產出獎勵金ヲ加ヘ或ハ公然ト輸出獎勵金ナル費目ヲ以テシ數百
 千萬圓ヲ惜マスシテ之ヲ保護ノ爲メ附與スルニ我邦精製業ハ僅カニ平
 均五拾八錢三厘ヲ以テ之ニ衝ラントス既ニ獨逸及澳匈糖ハ盛ニ本邦ニ

輸入シ昨年ノ如キ三百萬圓ヲ越ヘリ此事業ニ關係スルモノ豈寒心セサルヲ得ンヤ僥倖ニハ本邦ノ主タル輸入國ノ英領香港ニシテ此地ニ於テハ保護政策ヲ行ハサルカ故ニ輸出獎勵金ノ如キ敢テ恐ル可キモノアラサルモ彼ハ原料ニ無稅ナルト多年ノ經驗ヨリ熟練セル技師職工ヲ有スルトノ二點ニ於テ我ヨリ優勝ノ位置ニアリ熟練ノ如キハ我工業ト雖モ年ヲ重テ漸テ追ヒ彼ニ達ス可キヲ以テ若干年月ノ損失ヲ忍ヘハ之ヲ得ル敢テ難カラサルモ此損失ヲシテ輕少ナラシメ尙永年利益ノ根基ヲ立テシメンニハ須ラク何等カ工業政策ノ必要アルナリ元來一國工業獎勵ノ爲メ原料ヲ無稅トナス如キハ文明諸國ノ慣例ニシテ本邦開國以來ノ國是モ亦此主義ヲ認ムルナルヘク彼棉花羊毛麻苧等ノ如キ既ニ無稅トナリシニ關ハラス獨リ我精製糖業ノ原料ニ於テ此例外アルハ何故ソヤ我糖業政策ノ冷淡モ極マルト云フ可シ矣列國ハ盛シニ保護政策ヲ行ヒ又隣敵ニシテ毫モ保護ヲ加ヘサル香港尙且無稅ナルニ我精製糖業者ノ

ミ特別ノ酷遇ヲ受クルヲ見ハ抑モ我國家ハ精製糖業ヲ無視スルカ將タ又一年一千數百萬圓進シテ數千百萬圓ノ需要トナル此精製糖ヲ永ク外國輸入ニ仰クト決心セルニ因ル乎

第七 今若シ之ニ課稅ヲ加フルニ至テハ其負擔ノ何人ニ歸スルヲ問ハス到底此工業ノ遂ニ我邦ニ興ル能ハサルニ至ルカ故ニ更ニ他ノ方法ヲ以テ此工業ヲ獎勵スルニ非サレハ此課稅ハ之ヲ全然見合セラレ度事

某等ノ營業トスル精製糖業ハ上述ノ微衷ニ出テ即チ之ヲ簡言セハ國家文運ノ進步衛生ノ普及ト共ニ必要欠ク可ラサル食料トナス所ノ精製糖ノ爲メ永ク工費ヲ海外ニ散シ國力ヲ消耗スルヲ慨シ國家經濟ニ寸毫ノ補益ヲ期シ社會萬衆ニ卒先シテ之ヲ起業シ今ヤ漸ク竣功セントスル曉ニ達シ其收支未ダ知ル可カラサルニ際シ突如トシテ砂糖課稅ノ說起レリト聞ク豈驚愕セサルヲ得ンヤ

抑モ砂糖ニ課税アリトスルモ此日用必需食料品ニ道路風説ノ傳フル如ク數割ノ苛税ヲ賦スルニ非サルヲ又衛生普及ノ目的ヨリシテ此課税ノ獨リ精製糖ノミニ非ラサルヲ并ニ精製糖用原料ニ消費税ヲ課セザル可キヲハ賢明政府ヲ信スルノ深キ敢テ疑ハサル所ナリ而テ明年一月ヲ以テ將ニ實施セラレントスル輸入税率ニ於ケル精粗兩品ノ差等僅ニ原價五分ニ過キサレモ此五分ハ工業政策上我工業獎勵ノ爲メ必ス永遠ニ保存セラレ如何ナル方法ヲ以テ課税セラル、モ恒ニ我工業者ニ附與スルニ若干ノ優勢ヲ以テセラル、ハ之レ亦某等ノ確信スル所ナリ然レモ課税ノ結果トシテ豫期スヘキモノ大凡左ノ如シ

第一 精製糖ノ需要減少シ爲メ製造者間ノ競争ヲ來タスヘク立法ノ精神ニ於テハ消費税トシテ消費者ノ負擔ニ歸セシメントセシモノモ其若干ハ却テ製造者ノ負擔トナルニ至ルハ經濟市場ニ於テ常ニ經驗スル所ニシテ砂糖課税モ亦此結果ヲ

免カレサル

第二 况ンヤ徵税ノ賦課タル法文ニ於テハ毫末ノ脱漏ナキナ期スルモ當業者トシテ苦痛ヲ感スルノ甚シキ萬般ノ狡智ヲ絞リテ脱税ヲ計畫スル者輩出シ其ノ方法ノ如キハ實ニ收税官注意ノ達セサル域ニ進ムカ故ニ種々ノ方面ヨリシテ脱税者ヲ出スニ至ルハ外國輸入品ニ於テ特ニ其多キヲ見ル常ナレハ砂糖ニ於テモ亦當然豫期セサル可ラス果シテ然ランニハ彼ハ精製糖ノ課税幾分ヲ免セラレタルニ均シキモ某等ノ製造スル精製糖ハ原料輸入税ニ加フルニ内地課税ヲ以テセラルルモノトナリ之レカ爲メ前陳輸入税ノ差ノ如キ徴々タルモノアリト雖モ之ヲ消滅シ却テ我ニ重税ノ結果ヲ生ズルナリ以上ノ二要點タル全ク新設課税ノ爲メ生スヘキモノニシテ二者共ニ漠然之ヲ察スレバ敢テ甚シキ有力ノモノニ非ラサル如キモ其基礎幼稚薄

弱ナル本邦精製糖業者ニ對シテハ實ニ震雷モ當ナラザルナリ某等ノ事
業ノ如キ尙嫩葉ノ時期ニ在ルモノニ於テハ之ヲ今日ニ當リ非常ノ懇切
ヲ以テ扶植培養スルニ非ラスンハ一朝ノ風雨尙挫折ヲ來シテ樹立スル
能ハサル瞭然ナリ是ヲ以テ此工業獎勵ノ爲メ多少ノ國家政策ヲ今日ニ
於テ必要切望スルニ際シ却テ之レカ發育ヲ妨害スルニ至ルヘキ課税ノ
如キモノヲ行ハルニ至リテハ某等實ニ默止スル能ハサルナリ夫レ工業
死活ノ運命ヲ制スルモノ工業政策ニ在ルヲ以テ見レハ假令財政ノ必要
ニ迫ラルト雖モ此際輕舉事ヲ決セン乎百年臍ヲ噬ムモ尙及ハサルノ悔
ヲ貽スニ至ルヲ知ルニ足ラン噫國家經濟ヲ論スルノ士誰レカ深思熟考
此業扶植ノ任ニ當リ國家的有益ノ此新事業ヲ發達セシムルモノソ若シ
夫レ此事業ヲシテ之ヲ發達セシムル方法他ニ執ル可キ無キニ於テハ某
等砂糖課税ノ全廢ヲ主張セサルヲ得ス敢テ江湖識者ニ訴フト云爾

明治三十一年十月

東京府下深川區小名木川通
日本精製糖株式會社
電話番号九百五十八番

